

Youth Manna

マルコ1:35
さて、イエスは朝早く、まだ暗いうちに起きて寂しいところに出かけて行き、そこで祈っておられた。

2023/8/14(月)

士師記8:1-17

エフライムの人々は、自分たちを最初から戦闘に呼ばなかったギデオンを責めたけれど、ギデオンは怒って言い返すことをせず、彼らの自尊心に配慮した返答をしたね。

一方で、逃れたミディアン人の王を追撃する際の食糧の供給を断ったスコテとペヌエルの人々に対して、ギデオンは報復を宣言し、実際にその通りにしたよ。厳しい対応にも見えるけれど、神様の働きを軽んじず、真剣にそれを果たそうとする働き人の姿とも言えるね。

君は神様の働きに自分をささげること、喜んで応答するだろうか？それとも惜しむ心があるだろうか？

2023/8/15(火)

士師記8:18-35

自分の勝手な思い込み、行き過ぎた考えはで周りに迷惑をかけたことはないだろうか？臆病者だったギデオンも神様に取り扱われて勇者となりミディアン討伐を成し遂げた。統治者になってほしいと願った民に対してギデオンは神様ご自身が統治者であると伝えて正しくふるまっていたんだ。(23)しかしギデオンは祭司ではないのにエポデを作りオフラという町に置いてしまった。エポデは本来レビ人の祭司が使用するものであってマナセ族のギデオンが所有したり扱うものではなかった。このエポデは偶像礼拝に繋がりで後々人々をつまづかせてしまった。(27)
●勝手な思い込みではなく、力と愛と謙みの御霊によって歩めるよう祈ろう！！

2023/8/16(水)

士師記9:1-21

ギデオンの70人の息子たちの中に、シェケムの側女を母とするアビメレクがいた。彼はシェケムの身内の支持を取り付け、偶像の神殿から資金を得た。そしてならず者を雇い、70人の兄弟を皆殺しにしてしまった。彼は権力が欲しいがために、残忍な手段をとった。

しかし末の子ヨタムは生き伸び、彼はシェケムに向かって叫んだ。もし、シェケムの人々が誠意を持ってアビメレクを王とするならば良いが、そうでなければシェケムもアビメレクも焼き尽くされるべきだと、彼らに責任を求めた。

アビメレクのように、自分の目標が主への信仰よりも優先されることはないだろうか？

2023/8/17(木)

士師記9:22-40

シェケムの人々は独断でアビメレクを王とした。シェケムはかつて、イスラエルの民がヨシュアと契約を結んだ地であり、それを記念する大きな石があり、それを自分たちの優越性と考え勝手な行動を起こしたのかもしれない。

しかし神はそのままとはなさらず、アビメレクとシェケムの人々に災いの霊を送り関係を悪化させていった。

当然神様は悪を良しとされず、神様の計画の内にそれを破壊される。

今も色々な混乱が私たちの目の前にはある。神様はそのままにはされない。

神様のみこころに思いを向け、みわざを求め続けよう！！

2023/8/18(金)

士師記9:41-57

兄弟70人を殺して王になったアビメレクとアビメレクと裏切ったシェケムの人々への報いが語られているよ。

●シェケムの人々の最期はどうだった？46-49v またアビメレクの最期は？53v

●悲惨な最期になった。その原因が8:33-35にあるよ。そこを読んで感じたことを書いてみよう。

2023/8/19(土)

士師記10章

アビメレクの混乱があったから、神様はイスラエルの人々のためにトラとヤイルというさばきつかさを立てて、人々は信仰や生活が守られていた。文章では短く書かれているけどその期間は合わせると55年もあったんだ。

それだけの時間守られていて、その時代を知っている人も少なくなかったはずなのに、ヤイルがいなくなると、人々は今まで以上に悪を行うようになってしまった。子どもたちをいけにえにささげる偶像礼拝もあり、神様もその行いに対する裁きを実際に行なったね。

人々はその裁きを受けて、偶像を取り除き神様に見捨てないよう再びお願いする。とても都合のよい話だけど、それでも神様は人々が苦しむのを忍びないと思われた。そんな大きな愛を持つお方が私たちの神様なんだね。

その愛を受け取り、私たちもその愛によって生活していこう！

2023/8/20(日)

士師記11:1-25

ギルアデの長男であったエフタは、強者の勇士として知られていたが、母が遊女だという理由で家を追い出されていた。

しかし、エフタを追い出した人々は、自分たちが戦いを仕掛けられると、エフタを呼び戻そうとする。

はじめは断ったエフタでしたが、主への信仰を基準として、願いを受け入れた。エフタは信仰によって民の代表になり、堂々とイスラエルのために語った。

どんな境遇であっても、主への信仰を基準として歩んだからこそ、エフタをかしらとして、イスラエルの道が開かれていったんだ。

私たちの歩みの基準はなんだろうか。何を基準として生きているのか、静まり考えてみよう。